

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
 担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道246号厚木秦野道路 <small>あつぎはだのどうろ</small>		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	厚木区間	自：神奈川県厚木市中依知 <small>かながわけんあつぎしなかえち</small> 至：神奈川県厚木市飯山 <small>かながわけんあつぎしいやま</small>	延長	厚木区間	3.6km	
	伊勢原区間	自：神奈川県伊勢原市西富岡 <small>かながわけんいせはらしにしとみおか</small> 至：神奈川県伊勢原市善波 <small>かながわけんいせはらしぜんば</small>		伊勢原区間	4.8km	
事業概要 一般国道246号は、東京都千代田区から神奈川県内の内陸部を横断し、静岡県沼津市に至る延長約120kmの主要幹線道路である。厚木秦野道路は、第一東海自動車道（東名高速道路）・第二東海自動車道・さがみ縦貫道路を相互に連絡する広域ネットワークの形成を目的とした延長29.1kmのバイパス事業である。このうち、厚木区間・伊勢原区間では、並行する国道246号の慢性的な渋滞緩和、安全性向上を図るため延長約8.4kmを事業中である。						
厚木区間：H13年度事業化 H8年度都市計画決定 H11年度用地着手 H13年度工事着手 伊勢原区間：H10年度事業化						
全体事業費：約586億円 事業進捗率：33% 供用済延長：0km						
計画交通量：6,100～7,000台/日						
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年		
	(事業全体) 1.6	(残事業)/事業全体 273/489億円	(残事業)/事業全体 772/772億円	平成22年度		
	(残事業) 2.8	(事業費：242/458億円) (維持管理費：31/31億円)	(走行時間短縮便益：658/658億円) (走行費用減少便益：78/78億円) (交通事故減少便益：36/36億円)			
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量：B/C=2.1～3.5（交通量 ±10%） 事業費：B/C=2.6～3.1（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=2.5～2.9（事業期間 ±20%）						
事業の効果等 (1) 交通混雑の緩和：並行する国道246号厚木市～伊勢原市街地では、全国平均の約11倍の渋滞が発生しており、厚木秦野道路の整備により国道246号の交通が転換し、交通渋滞の緩和が見込まれる。 (2) 安全安心な通行の確保：並行する国道246号厚木市～伊勢原市街地では全国平均の約6倍の事故が発生しており、厚木秦野道路の整備により渋滞が緩和し、交通事故の減少が期待される。						
関係する地方公共団体等の意見 ・神奈川県知事の意見：一般国道246号厚木秦野道路は、国道246号の慢性的な渋滞を緩和するとともに、東名高速道路や新東名高速道路、さがみ縦貫道路と一体となって、広域的な利便性の向上や地域の活性化などに寄与する大変重要な路線である。また、地元自治体からの整備促進要望も大変強く、引き続き、早期完成を目指して、本事業を強力に推進するとともに、未事業化区間についても、早期の事業化を図りたい。						
事業評価監視委員会の意見 事業の継続を承認する。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 第二東海自動車道、さがみ縦貫道路の整備が進められており、平成21年度には、さがみ縦貫道路（海老名JCT～海老名IC間）の供用がなされ、インベスト神奈川による地域産業の活性化支援が展開中である。						
事業の進捗状況、残事業の内容等 第二東海自動車道（伊勢原北IC）へのインターアクセス効果が高い区間及びさがみ縦貫道路（圏央厚木IC・JCT）のインターチェンジ整備区間を重点的に用地取得を実施中。引き続き、全線供用に向けて事業を進める。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 用地取得は約47%完了。引き続き第二東海自動車道の供用時期に併せて事業を進めるとともに、供用形態を含め地元協議を進めて効率的な事業推進を図る。						
施設の構造や工法の変更等 —						
対応方針：事業継続						
対応方針決定の理由 以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏						

まると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。